

書 評

江藤文夫・大橋正洋・木村彰男・蜂須賀研二 編集

リハビリテーション医学レビュー1994 年度版

佐久川明美・水落 和也 (横浜市立大学リハビリテーション科)

文字どおりリハビリテーション医学に関わる文献のレビューである。全体を総論、障害・疾患、関連領域の3分野に分け、さらに項目分類し、各項目ごとに10個ずつの文献を掲載し、その他に関連文献を加えている。項目の冒頭には概観が記され、各項目分野での近年の研究の流れやトピックスなどを紹介している。著者は、現在それぞれの分野で活躍中の第一線の研究者であり、実践的で臨床に生かせる文献選択となっている。

医学の著しい進歩に伴い、情報量は増大し、なかでもリハビリテーション分野は対象となる範囲が広い。全体に目を通すことは限られた日常の時間の中では困難である。特に日頃関心の薄い分野はなおざりにされやすい。

本書は概観を読むだけでも各領域の大まかな流れがわかり、短時間で情報を得る助けになる。各項目の文献も、国内外を問わず偏りのないよう選択に気を配られており、簡潔でわかりやすいコメントが添えられている。もっと紹介文献を増やしたり参考文

献を多数掲載してほしいと思う反面、これ以上の厚さになると取り扱いにくくなり、絶妙の分量と言えるだろう。

リハビリテーションを学び始めたばかりの者にとっては、リハビリテーション医学の対象とする領域を知り、情報を得る手がかりとして非常に有用な1冊であり、すでにリハビリテーションを専門としている者にとっても、最先端の情報を整理するうえで役立つ。日頃苦手としている領域についてはなかなか原著をひもとかないものだが、そういう領域の知識を得、興味を持って原著に向かうきっかけにもなるのではないかと思われる。

熟読するタイプの本ではないが、時間のある時に眺めるには格好の本であり、手元に置いて大変便利な一冊である。

筆者の労力は大変なものだと思われるが、今後、継続的な刊行を期待したい。

(B5 176頁 6,000円(税込) 1994 三輪書店刊)